

Z E N S H O K Y O  
全 商 協  
全国遊技機商業協同組合連合会広報誌

1 JANUARY  
2011  
VOL.5



新春特別インタビュー■深谷友尋 日遊協会長  
8単組理事長 年頭所感



明けましておめでとうございます  
本年もよろしくお願いいたします

全商協

Z E N S H O K Y O  
**全 商 協**  
全国遊技機商業協同組合連合会広報誌  
CONTENTS 1 JANUARY 2011  
VOL.5



「千客万来」の願いをこめたしめ飾り。  
幸せを届けてくれる年神様(としがみさま)が  
訪れてくるときの目印。  
2011年が皆様にとって良い年で  
ありますように

1	新春特別インタビュー	深谷友尋 日遊協会長
4	年頭所感	関西遊商・井上理事長 北遊商・遠藤理事長
6		東北遊商・渡邊理事長 東遊商・中村理事長
8		中部遊商・安藤理事長 中国遊商・松原理事長
10		四国遊商・日野理事長 九州遊商・石山理事長
12	パチンコ Happiness	野球人 達川光男さん
14	役員さん登場!	安藤 享 理事
16	地区遊商だより	Vol.1
18	2010年を振り返って	
20	業界NEWS・お知らせ・編集後記	



新春特別  
インタビュー

# 深谷友尋

社団法人  
日本遊技関連  
事業協会

## 会長



遊技業界の中で唯一の横断的組織である日遊協は、ホール・メーカー・販売業者等の業界関連企業が加盟し、設立当初から健全化・近代化・適正化の3項目を柱に活動してきた。現在は8つの委員会では将来に向けて遊技産業が展開できるよう提言等をまとめている。

そこで、広報誌第5号の特別インタビューでは、深谷友尋会長に業界発展への提言や日遊協の取り組みについて伺った。

20万人で、前年の1580万人より140万人増え、9%の増加となりましたが、ピーク時の平成6年の2930万人に比べて4割以上も落ち込んでいます。

改めて業界を取り巻く数字を見ますと厳しい現実を突きつけられます。ただ、参加人口が下げ止まったことが唯一の明るい材料と言えます。

深谷会長 現在は低射幸性の機械と低貸玉営業が参加人口の増加を支えています。少子高齢化が進み人口減少が続く中で、遊技が可能となる18歳以上の若年層がパチンコを敬遠したり、多様なレジャーの中で選択肢にパチンコ・パチスロがない状況は大きな問題だと捉えています。

——低貸玉営業の状況をどう捉えていますか。

深谷会長 9月30日現在の「P・WORLD」を見ますと、貸玉1円以下の導入店舗数は全登録店の7割であり、特に北海道では95%強が導入している状況です。低貸玉営業はお客様にご満足いただけてはいますが、4円営業と1円営業では当然として売上が4分の1になりますので、ホールの経営面からは厳しい現状と言

シンプルなゲーム性への回帰と  
人間力溢れる人材育成が必要

——早速ですが、現在の遊技業界に  
対する認識からお話してください。

深谷会長 全国のホール数は平成22年の警察庁の統計によりますと21年末に1万2652店となり、14年連続して減少しています。遊技機の台

数はさほど減っていませんので、大型店が増加している点特徴と言えます。また、店舗間の格差、都市部と地方の格差が広がる傾向も相変わらず止まりません。中小のホールがますます苦しい時代になっていることを憂慮しています。平成22年発行の「レジャー白書」では、21年の市場規模は21兆650億円で前年より

は微減で済んでいますが、ピークとなる平成7年の30兆9000億円と比べて9兆8000億円も減少しています。つまり、かつての30兆円産業は3分の2に縮小したことになりました。これも店舗数の減少とともに、業界のバイが小さくなっていることの原因です。また、白書によると、平成21年のパチンコ参加人口は17



えます。

——確かに参加人口の増加に寄与している反面、売上の減少や4円営業を圧迫していると問題視されています。

**深谷会長** 低貸玉営業が4円営業の圧迫材料になっているのは確かです。これに伴ってパチンコの収益構造が激変し、遊技機購入頻度、機種構成、粗利に対する考え方など、ホール経営全体の見直しが迫られています。長年にわたる貸玉4円の単一市場が雪崩をうって変化しつつあります。

これは業界の歴史上で初めてのことであり、地殻変動が起きているといっても過言ではありません。今後はお客様の裾野を広げていかないと、経営的に苦しくなるだけでなく、真の大衆娯楽として認めてもらえないと思います。

——では、参加人口を増やすためには何が必要でしょうか。

**深谷会長** 国民の趣味が多種多様化している時代ですから、ゲーム性豊かな機械を創出させなければなりません。射幸性についても、パチンコは大人の遊びであり、大衆娯楽という以上はハラハラ・ドキドキ感は必要で、多様性があっても良いと思います。さらに、お客様が求めている遊び方を常にリサーチしていく必要もあります。特にパチンコをしない人たちの目線に立って、その方たち

にお客様になってもらう努力をして

いかなければなりません。現在はゲーム性が複雑になり、遊技方法が難しくなっています。高齢者でもフラツとホールに入った時に分かりやすい機械が設置してある、もしくは遊技方法の説明書きがあるということ

が必要でしょう。特にパチンコ・パチスロは大衆娯楽ですので、決してヘビーユーザーだけの娯楽ではありません。やはり大衆娯楽という原点をしっかりと見定める必要があります。日遊協ではホールで出口調査を実施し、また今年2月にはパチンコをやめた方、やめようと思っている方、一般ファンを招待する「パチンコ・パチスロ試打会」を予定しています。

この取り組みで、なぜパチンコ・パチスロをやめたのか、やめたいのか、しっかりと意見を聞いて、この情報を基に次の経営戦略を立てようと考えています。本来ならパチンコ・パチスロをしない方に聞くのが一番良いのですが、今のところ方法・手段がありません。ですから、まずは以前はパチンコを遊技していたが、今はやめた方に理由を聞いて、その要因、例えば遊技料金が高い、遊びづらい、雰囲気が悪い、空気環境が悪い、騒々しいなどの意見を集めて、一つひとつ解消していく作業が大切となります。

また、ホール従業員の人間力が溢れる社員教育が絶対的に必要だと思っています。確かに接客についてマニュアル化し、ホテル並の接客は十分にできていますが、それだけで果たして大衆娯楽を標榜する業界がお客様に真のサービスを提供できるのでしょうか。お客様は多種多様な方が来店されます。それと目的もパチンコ・パチスロで遊びたい、日頃の鬱憤を晴らしたい、会社でのストレスを発散したい、など異なります。その一人ひとりに対して気配り、目配り、心配りがホール内では要求されると思います。そうすると、人間力のある人たちを育てなければ、未来のホールはないと感じています。ホール経営が近代化される中で、実は大切な「心」を忘れてしまったのではないかと。もう一度、人間力を高める社員教育を行っていかないとけません。

唯一の横断的組織として

業界の将来をリードする

——次に日遊協の取り組みについてお話をください。

**深谷会長** 明日の遊技業界を考えることをテーマに日遊協は平成元年に創立して現在満21歳となります。最初の10年間は立ち上げ時の理念である健全化、近代化、適正化の3本柱のもとに遊技産業がどうあるべきかという議論をしてきました。今後は「行動する日遊協」としての事業を

継続強化していくと同時に、将来の遊技産業を見据え、提言する政策集団としても機能していくことが業界唯一の横断的組織としての役割だと思っています。

また、長期的には平成20年に制定した「日遊協ビジョン」の「企業市民としての地位を確立する」「娯楽の原点を見つめ直す」「社会貢献度の高い活動を一層充実する」という3本柱の指針に沿って、公益法人として、また業界の横断的な組織として業界内の意見を調整し、行政とも話し合いをしながら実現に向けて舵取りをしていきます。そのために委員会の構成を22年4月から抜本的に改正し、シンブルな8専門委員会制にしました。同時に若い人たちの起用を進めることで、機動性を高めて、施策をスピーディーに具現化していきます。

——具体的な活動をいくつかご紹介いただけますか。

**深谷会長** まず1円パチンコの低収益性を打開するために、メーカー有志にお願いして1円パチンコの楽しさ、エッセンスを持った4円用の遊技機として新しい「CRAA機」を試作し、平成22年5月に試打会を行いました。試打会では好評で、製品としての出来栄は良いと確信しています。さらに新しい機械を開発中で、これらは2月の「パチンコ・パチスロ試打会」に登場させます。そ

2011-1 ZENSHOKYO 2





# 真の大衆娯楽として 発展するために “人間力”重視の 教育が不可欠

こでやめた方、やめようと思ってい  
る方、さらに一般のファンに試打し  
てもらおうと同時に機械についての忌  
憚のない意見を聞くためのイベント  
を計画しています。

次に外部からのゴトに対して、日  
遊協は平成21年から各支部が主催ま  
たは共催して全国6か所で不正対策  
勉強会を開き、コンプライアンス営  
業の一層の向上を図っています。平  
成22年10月には北海道で地元組合と  
共同開催して成功しました。平成23  
年も全国で地元組合との連携を増や  
してより多くの動員を図ろうと考え  
ています。

また、業界として社会的責任も重  
要です。日遊協が主催し、業界13団  
体の後援で「共生の森」の里山づく  
り事業を続けています。これは環境  
問題への対応という側面があります  
が、もう一方では人間力の育成にも  
つながります。22年で3年目となり  
ましたが、10年計画ですのであと7  
年継続しないといけません。その中  
で業界に従事している方の資質を高  
めていきます。社会貢献や環境への  
配慮、依存症への対策などは、個々  
の企業や団体が独自に活動しても効  
果は薄いので、日遊協も調整役とな  
ってリードしていくつもりです。

——日遊協の委員会には流通制度委  
員会があります。

深谷会長 日遊協の専門委員会のト

ップはほとんどの場合ホール関係者  
が就任していますが、流通制度委員  
会の委員長には全商協の石山敬達筆  
頭副会長にお願ひしています。委員  
会としては、中古機流通や認定制度  
の促進を図るとともに、現状の問題  
点を検討し、よりよい制度の確立を  
目指していくというのが主要な目標  
です。現在は主に遊技機取扱主任者  
の講習・試験の日程や出題内容につ  
いての改良を協議しています。講習・  
試験の日程増を望む要望が多いので、  
23年度については「更新」が3日増  
の年間23日、「新規」が1日増の同  
13日と決めたところです。

——日遊協が関わっている販売業者  
登録制度と遊技機取扱主任者制度に  
ついてはどうでしょう。

深谷会長 販売業者登録制度と遊技  
機取扱主任者制度は、業界の健全化  
のために平成6年に施行されました。  
販売業者登録制度は不適格な業者を  
排除し、業界の健全性を高めるため  
に必要な制度です。資格審査委員会  
は販社団体（全商協、回胴遊商）、  
ホール団体（全日遊連、日遊協）、  
遊技機メーカー団体（日工組、日電  
協）の各代表者と法曹関係者で構成  
され、新規登録、登録更新について  
申請者を厳正に審査して可否を決め  
ています。

また、遊技機取扱主任者について  
は、平成16年に施行された検定規則

等の改正により遊技機販売業者等に  
所属する遊技機取扱主任者が法令上  
に明記され、その業務が明確に位置  
付けられました。これは全商協等  
関係団体の長年の努力が結実した画  
期的な出来事であり、今後も健全な  
中古機流通のためにますます重要度  
が増している制度です。人材教育は  
日遊協が創立以来最も力を入れてき  
たテーマです。遊技機取扱主任者の  
講習及び試験は遊技産業の人材教育  
の中で特に重要です。

——最後に全商協へ一言お願いいた  
します。

深谷会長 全商協と地区遊商は設立  
以来、遊技機の販売と流通過程の健  
全化、適正化等を推進する目的で活  
動してこれ、パチンコが大衆娯楽  
として国民に親しまれていて一端を  
担ってきました。その中で最近の不  
正を見ますと手口が巧妙化し、中古  
機移動や認定申請での確実な点検確  
認が不可欠となっています。こうし  
た状況を重く受け止めて、点検確認  
をより実質あるものにし、業界の健  
全化に尽力されることを期待してい  
ます。中古機流通システムはホール  
にとっても大切なシステムであり、  
販売業者の方たちは遊技産業の根幹  
を成すハードウェアを提供するわけ  
ですから、そこには誇りを持っても  
らい、また信頼関係の維持にいま以  
上に努力されることを願っています。



## 混沌とした時代を変えるために「拓く」

関西遊商理事長 井上威夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、ご健勝で輝かしい新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は関西遊商創立50周年という大きな節目を迎えることができました。組合の歴史は先輩諸氏の努力の積み重ねによって作られてきたものです。その場面に立ち会え、皆さんの協力の下に記念行事が滞りなく無事終了しましたことを改めて感謝申し上げます。今後は皆さんの手で新たな組合の歴史を作っていくように努力していただきたい、と思います。

さて、6月からスタートした新中古機流通制度では、組合員の皆さまには、過大な作業量が増えて負担をかけています。運用から半年が経過して多少の問題が生じています。そういったあらゆる問題点を再検討しながら、信頼されるシステム構築のために必要な担保として、仕事をこなしていただきたい、と思います。

また、新運用の開始に伴い、中古機の取扱量が従来に比べ2～3割ダウンしています。このダウンの意味は評価が分かれるところですが、私は正常な姿に戻った、と評価したいと思っています。

ダウンの要因として設置中に点検確認ができなくなったことが挙げられますが、それ以上に大きい理由が、ホールさんが新台を“投機目的”で買わなくなったことです。

転売ありきの先行導入は即抜き、即売、という異様な営業形態を生み、結果的にはファンの懐を痛め、それがファン離れを引き起こす要因になったことも否めません。

そういう意味では、ホールさんが機械性能を吟味し、本来必要な台数しか買わなくなったことで新台の販売台数が減りました。それによって中古機流通にも影響が出ていますが、一概に悪いとは言いきれません。むしろ、これまでが異常で、今が正常な姿に戻り、新台も中古も適正な台数に落ち着いてきた、ということではないでしょうか。

当然、新台と中古の量は比例するものです。新台が減れば中古も減ります。ホールさんの経営上、中古の活用がしにくくなることは予想されます。新台も中古もよく吟味して機械を大事に使うことが求められます。

パチンコの市場規模が30兆円産業といわれた過去には戻れません。ファンを3000万人に戻すことも難しい。それなら、現在のパチンコ市場の中で、事業を再構築するしかありません。どんな業界でも消費者に見放されたら終わりです。ファンのニーズに合った機械を提供することが、これ以上ファン離れを起こさないためにできる業界側の努力です。

そして、メーカーばかりを頼りにするのではなく、自分自身が業界の未来を“切り拓く”という組合員一人ひとりの気概が求められるところです。



一筆の想い  
混沌とした時代を  
変えていくために「拓く」。  
自分自身を拓き、  
社会、未来を拓きたい

## 不正対策の徹底と不正根絶に邁進

北遊商理事長 遠藤重廣

2010年は、6月からの中古機流通システムの新運用スタートに伴い、研修会の多い1年でした。新運用スタートにより、ホール様には撤去済みの遊技機以外は移動ができなくなり、今までのように新機種を設置してから短期間での移動が不可能になりました。最近の傾向として、新機種を導入しても客離れが早く、新運用スタートにより移動設置できるまでの時間が長くなるようになり、資産としての遊技機の運用スピードが鈍化した感があります。

その新運用において撤去遊技機明細書や中古遊技機確認書をホール様に作成していただくため業務負担がホール様にかかるようになりましたが、作成していただいた明細書や確認書に不備があると書類進捗がストップしてしまうため、希望の開店に間に合わなくなる可能性も出てきました。そのために、ホール様には不備のない書類作成を心がけていただくしかありませんが、明細書や確認書を作成する際に間違いがないよう慎重な作成をお願いいたします。

また、新台及び中古機の流通が減少しておりますが、これは遊技機メーカー各社の新台販売スパンが短くなった為にホール様の負担が増え、資金力のあるホール様は遊技機を購入できるが、そうではないホール様にとっては遊技機の選定で熟考しなければならず、新運用のスタート時期も重なり中古機の流通量が減少していると推察されます。そこで、メーカー様には、ファンが飽きない、長期間に亘り使用できる遊技機づくりを期待しております。

さて、北遊商の活動では、不正対策への取り組みとして、取扱主任者へのセキュリティー研修を年間に数度開催しています。研修会では、近年横行している各メーカー機種へのゴト手口を細かく説明し、実機を用いて研修しています。今後は道内の各方面遊技場組合にもホール管理者に対するセキュリティー研修の開催を呼びかけていければと考えています。また、環境対策や社会貢献への取り組みも、セミナー開催時に加入販社の各社員から募金を募り、然るべき団体へ寄付を行っているところです。

最後に2011年は「何事にも、スピーディに対応し、解決を図る」をモットーとし、不正対策の徹底と不正の根絶を目指して、よりいっそう邁進していきます。また、遊技機を少しでも長く使用するためにも、中古機流通の活性化も図ります。



一筆の想い  
厳しい時代だからこそ、  
喜びや期待で心をわくわくさせたい



## 公平・公正な組合活動で相互扶助に力注ぐ

東北遊商理事長 渡邊孝美

2010年は東北地区だけではなく全国的に中古機の流通台数が停滞し、その要因としては国内景気の冷え込みや政治不信などからくる『将来の不安』が全国民に蔓延し、経済活動が低迷したことが挙げられます。

その中古機流通では、昨年6月1日から『新中古機流通制度』が施行されましたが、この新制度は一昨年後半より全商協及びその傘下の全国8地区遊商で主に『流通時の型式保全』等について議論し、検討を重ねました。最終的に新制度が中古機流通協議会の決定・承認を受けたことから、当組合では5月から組合員を対象とする取扱研修会を東北5会場にて、またホール管理者向けに4会場を設定して導入趣旨並びに取扱説明会を開催しました。また、この新制度の施行を機に更なるスキルアップを目的として、7月28日には遊技機取扱主任者を対象とする『スキルアップセミナー』を外部講師を招いて200名規模で開催しています。

昨年を振り返りますと、当組合で今後の組合活動を支える若手経営者による『青年会』を立ち上げたことは、厳しい現況下の中で価値あることと大いに期待しています。

また、環境対策では、リサイクル・環境対策委員会が継続的に取り組んでいますが、現在は遊技機の廃棄リサイクル事業を行う『日工組システム』『首都圏リサイクルシステム』『刑務所におけるリサイクル作業』の概要等を担当者を招聘して勉強会を開き、今後の適正処理に繋げているところです。特に刑務所での処理作業については、作業状況見学会を実施して直に現場を知る活動も展開しました。

社会貢献活動でも、リサイクル・環境対策委員会がペットボトルのキャップを回収し、アフリカ諸国の子どもたちのためのワクチン購入資金に充てる活動を組合員に働きかけ、さらに東北6県の児童養護施設には直接現場に赴いて寄付金を手渡し、子どもたちの奨学支援に微力ながらも協力しています。同じく東北6県の犯罪被害者支援センター、防犯協会、暴力団追放県民会議に対して毎年寄付金を贈呈するなど積極的に社会貢献活動を実施しています。

最後に2011年は組合員や私自身の『健康第一』をモットーに、『公平・公正』な組合活動と常に『活性化・活発化』を心がけ、是々非々を明確にし、厳正な中でも組合員間の相互扶助に力を注ぐ組織運営を図っていきます。



一筆の想い  
協力・協調・協同など、  
共に考え行動し  
厳しい現況下を乗りきること願って



## 意識と方向性を共有した組合運営を実行する

東遊商理事長 中村昌勇

2010年の中古機市場を振り返りますと、やはり6月の運用ルールの一部変更だったと思います。変更とよく言われていますが、この制度が出来た時、ホールと販社が一体となって中古機流通を行うという約束でスタートしました。ですから、設置中の機械を点検して保証書を作るという行為がなくなった事で、適正な運用が出来るようになったのではないのでしょうか。6月から運用がスタートして以来、販社もホールも慣れるまで大変な思いをしてきたかと思いますが、一丸となってこの制度を大切に確実に役割を果たすことが重要だと思います。

中古機流通において不正対策への取り組みも大事です。日ごろ、安全で安心して利用していただける中古遊技機を提供していくために、どのように取り組むべきか？という事を役員が色々考えています。この中古機流通制度を守っていくために皆、必死になっています。

そこで、東遊商では、中古機流通業務に関する情報をスムーズに伝達し、現場の様々な意見を吸い上げるため、中古機流通を取扱う全ての組合員から1名ずつ機械対策委員を選出していただき、グループ単位での会議や全体会議を開催してきました。その結果、組合員間の横のつながりが綿密になり、不正行為には相互監視をして防止する事にも役立ち、適正な中古流通という同じベクトルに向けて全体が動くようになってまいりました。この試みは非常に大きな成果を果たしています。

また、毎年秋に中古機流通を取扱う全ての組合員のオーナーと取扱主任者、実務担当者と呼んで更新研修会を行ってまいりましたが、昨年は点検確認実務の周知徹底を図るべく、オーナーと取扱主任者を分けて研修会を開催しました。取扱主任者に至っては、1280名余りの主任者を10名～20名ずつの少人数に分け、80回以上にも及ぶ実務講習会を毎日開き、実技講習とスキルチェックを行っているところです。たとえ一人でも、実務の理解不足という事がないようにするため、教える側も教わる側も本当に真剣でした。こうした取り組みのひとつひとつを積み重ねていくことによって、組合員に組合としての姿勢を理解していただきたいと思っています。

さて、私は、今年の決意として「楽」という文字を選びました。楽をしようというわけではなく、楽しくしたい。遊技人口の減少や、昨今の不景気で世の中全体が、あまり楽しく感じる事が少ないように思います。楽しくこの業界を盛り上げていくためにはどうすべきか？皆で考え、皆で相談し、実行するという事が大切であると改めて感じさせられました。皆で意見を出し合い、同じ意識で同じ方向へ進んでいくという事を念頭に組合運営をしていきたいと思っています。



一筆の想い  
厳しくとも  
楽しく盛り上げたいという  
想いを込めて



## 何があっても前進あるのみ

中部遊商理事長 安藤利彦

新流通がスタートして半年あまりが経過しました。ホールさんには不慣れな書類作成もお願いしているため、当初はミスも目立ちましたが、ヒューマンエラーは随分減ってきました。公安委員会に提出する保証書を作成する組合では、二重三重のチェックをして間違いがないように細心の注意を払ってもらっています。

その一方で、販社さんには大変な苦勞を強いています。販社の中には年配者や女性も作業に従事しているので、重たい機械にビニール袋をかぶせる作業は、重労働になっています。セキュリティを担保する上で、現段階ではこれが最適な方法であったことをご理解願いたいと思います。

ただし、一番重要な点検確認よりも保全処置に時間がかかっていたのでは本末転倒です。時間をかけずに、簡便にセキュリティを保全する方法は、今後とも検討していかなければなりません。中古市場は年間約180万台です。これだけの市場なら外部の知恵を借りて代替案を出してもらうことも一つの方法かと思います。

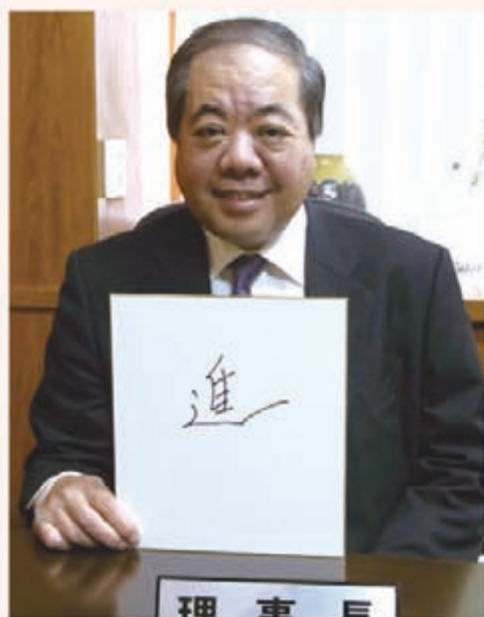
いずれにしても、今年は新流通を軌道に乗せる1年です。取扱主任者のレベルを一層引き上げ流通過程で不正機を発見することも大事ですが、それ以上にホールさんの日常点検で異常が簡単に発見できる工夫も必要です。

中古機流通は無くなることはありませんが、われわれ販社はホールさんが元気になっていただかないことには商売になりません。ホールさんが元気になる、ということは、業界を挙げてパチンコファンを増やす努力も必要です。業界が活況を呈していたころは、機種構成もセブン機、ハネモノ、権利モノ、アレパチ、とバラエティーに富んでいました。今はセブン機一色です。これでは新規ファンを取り込むことは難しい。

若者のパチンコ離れが進んでいます。スロットは若年層に支えられているので、未来を描けますが、中高年者に支えられているパチンコは、このままではジリ貧になるばかり。いずれはパチンコとスロットの設置比率が逆転すること考えられます。

ハネモノの第1号となったゼロタイガーは名機中の名機といえます。まったくパチンコをやったことのない人を取り込むには、パチンコの面白さが素直に伝わるハネモノが入門機として必要です。

この30年間セブン機を越える画期的な機械が生まれていません。今年は第二保通協の動きも注目されています。メーカーの申請件数が増えて、市場に登場する機械が増えると共に、パチンコファンを増やす画期的な機械が登場することを期待したい、と思います。



一筆の想い  
何があってもとにかく前進あるのみ。  
後ろを向いて悲しんでいない  
何も始まらない



## 行き詰ったときは初心に戻る

中国遊商理事長 松原陽輔

景気回復が一向に見えない昨年は、中国遊商としては書類の取扱量が25～30%ダウンしています。一般サラリーマンは給料やボーナスがカットされたり、さらにはリストラで遊ぶ金が削られているわけですから、ホールへ足を運ぶ回数も減り、それがホールの稼働低下を招いています。これは大都市圏といえども例外ではありません。

メーカーとホールの架け橋となる販社の立場としては、ホールさんが元気になってもらうことが一番ですが、そのためには日本全体が元気になることです。

中古機は今やホール営業に欠くことができないので、中古機市場が大幅にダウンすることは考えられません。ただ、新台を買うホールさんの体力がなくなれば、それだけ中古市場に回ってくる台数も少なくなるので、今年は中古機の値段が上がることも予想されます。

中古機流通制度の新運用ではホールさんからの提出書類のミスが多かった。数字やアルファベットの書き間違いなど単純なものです。行政に提出する書類も含まれるので、記入ミスの無いようにお願いします。組合のスタンスとしては決められたビニールの袋詰めで型式の同一性の担保を確保するのが一番の仕事と考えています。撤去された機械の点検確認を確実に行って袋詰めで型式を保全することが第一だと思っています。組合員さんには引き続きご協力をお願いしたいと思います。点検確認を確実にを行うために、ゴト対策セミナーも開いています。最近のゴトの手口はますます巧妙化しています。目視だけでは見逃してしまいそうな箇所も予備知識があれば、そこに目が向けられます。

中国遊商の社会貢献活動の中で関係者の皆さんから喜ばれているのが、病院への遊技機の寄贈です。これは脳血管障害の患者さんのリハビリ用に、娯楽性の高い遊技機に着目した病院側からの要望が発端でした。昨年11月に広島の日市記念病院と廿日市記念病院へ合計8台のパチンコ、スロットを寄贈させていただきました。玉やメダルに触らなくてもゲームができるように改造しています。アフターメンテも含めて、そういうことができるのは販社組合ならではの、と自負しています。

全商協では単組の地域性が違えば、意見も一つではありません。お互いの立場を尊重しながら8単組が親睦を深めるために提案させていただいたのが、全商協会長杯チャリティゴルフコンペです。組合の仕事上の問題点での対応の差があることも事実ですが、回を重ねるごとに組合がまとまっていく力となり、温度差を縮めていくことができれば幸いです。



一筆の想い  
行き詰ったときは初心に戻り、  
一人ひとりの立場がよくなり、  
全商協が一つにまとまる願いを込めて



## 和を重んじて、みんなで協力し合う

四国遊商理事長 日野泰昌

2010年も厳しい1年でしたが、元々、四国はそんなに大きい組織ではないので、幸い、組合員さんが会社を閉めたり、倒産する、ということはありませんでした。ただ、組合員さんの台所事情は相変わらず厳しいことは変わりません。これまで10台買ってもらっていたものが、5台、3台、と減って行く中で、人員の削減も余儀なくされています。

われわれ販社の立場としては、新台が出ないことには中古機市場も成り立ちません。中古市場が活発化するには、他力本願ではありますが、日本経済が回復して、時代にマッチした画期的な機械をメーカーさんが開発し、それによってホールさんが元気になることしかありません。「パチンコは不況に強い」といわれた時代もありましたが、失業者が337万人に達し、新卒者の6割しか就職できない現代社会では死語です。4円パチンコの稼働が落ち込み、1円パチンコへお客様が流れるのは、現代社会を映し出しているともいえます。

さて、6月からスタートした中古機流通の新運用も半年が経過しました。現場から漏れ伝わってくるのは、保全措置であるビニールの封体作業が、時間がかかってかなりの力仕事になっている、ということ。チェーン店移動でもこの作業が伴います。「1人ではできない」との声も聞こえてきます。使用後のビニール袋の処分に当たっては環境問題につながる、と指摘する人もいます。しかし、現時点で中古機の保全を担保するのは、この方法が最善です。皆で決めた以上、粛々と遂行していくことが行政に対する信頼にもつながります。作業は大変でしょうが、われわれに課せられた安全の担保だと思ってやり遂げてください。

不正対策については、研修会をその都度開いていますが、四国は組合員の数も少ないので皆さんとの顔が近いことが特徴でもあります。社員同士は当然ですが、代表者の方も他社の社員の顔をよく知っています。限られたエリアのコンパクトな組合なので家族的な雰囲気があります。そのため、色々な情報もすぐに入ってきます。書類上のうっかりミスや風評があると、代表者に直接組合に来ていただいて改善を申し出ています。自社の能力以上に仕事を取ろうとするとそこに手抜きも生じてきます。万一、違反が起きてしまった場合、120日の書類発給停止を受ければ会社が存続しなくなります。そういうことで一人の落伍者も出さないように努めていきます。

2011年度は社会貢献活動にも力を入れていきます。昨年から始めた献血活動では、組合事務所まで日赤の移動採血車を派遣してもらい、40人あまりの協力をいただきました。これを社会貢献活動の柱として、エコドライブ講習などで環境問題にも取り組んでいきますので引き続き、ご協力をお願いします。



一筆の想い

仕事上は商売敵でも  
困った時は協力し合い、助け合う。  
そのためには和を重んじたい



## 簡素で信頼を損ねないシステムの確立を

九遊商理事長 石山敬達

販売業者主導の中古機流通が始まって10年目の節目を迎えた昨年は、歪を見直して信頼を再構築する年でもありました。それに伴って6月から新流通がスタートしました。実際運用してみるといろいろな問題点も見えてきました。型式を保全するためのより効率的な方法を今後とも検討し続けていかなければなりません、決めたことは徹底してやらなければ次のステップに進めない、ということをご理解願いたいと思います。今年には新流通を確立する年です。引き続きご協力を賜りたいと思います。さて、福岡県ではAPECの自粛明けから複数の貸し玉料金の併設営業が進むと思われます。これまで1円と4円が明確に棲み分けされていました。当初、1円専門店是比较的小型店が多かったのですが、大手チェーン店も一部の店で1円専門店にするなどして徐々に増え、件数としては全体の約3割に達していました。それでも、何とかバランスを保っていたのですが、併設が進むと近隣の競合店もその流れに向かうことが予想され、特に小型の専門店はやや恐々としています。ホールさんの本音でいえば4円営業を守りたい。それはすでに1円専門店が飽和状態となった併設地域で、1円コーナーでの遊技機の入れ替えが増え、1円等価の時代に突入しているからです。

競争が激化すれば業界最大の集客イベントである遊技機の入れ替えが重要になりそうな気配です。新台のコスト削減のために、チェーン店移動が主流になっているように、中古機の需要はますます高まってくるものと思われます。入れ替え回数を維持しながら入れ替え経費を削減するには中古機の活用は欠かすことができません。しかし、中古機市場だけが突出することはありえません。新台あつての中古市場です。

そこで懸念されるのは新台による集客効果がどんどん短くなっていることです。遊技機のタイプや業界の経費構造により最初から赤字を打たずに回収に走るケースが蔓延していることなどが影響していると思われますが、このままいくとお店は新台入れ替えでの集客効果が思うように行かず、販売側も新台や中古の遊技機などの流通量が減少するという双方にとって厳しい時代が来るかも知れません。

10年前に理事長に就任した時から、あいさつの中で毎年のように「厳しい」ということばを使ってきましたが、今思えばいろいろ問題があったにせよ現在の厳しい状況に比べれば10年前はまだまだ良い時代だったことが分かります。知恵を絞り、変化に対応しながら生き抜く地力がパチンコ業界にはあります。これからも当時と同様、お店の経営努力やメーカーの開発力に期待がかかります。これに我々販社の地道な努力が加われば、きっとこの難局を乗り切れるものと確信しています。



一筆の想い  
組合員さんに負担のかからない方法で、しかも信頼を損ねない方法を確立したい



# ぱちんこ Happiness 野球人

達川光男



「パチンコ」と聞けば、即座に思い浮かぶとおきのエピソードがある。今から33年前の1977年11月、私にとっての「運命の日」と言っても過言ではないドラフト会議の当日だった。

当時、東洋大4年のドラフト候補生という立場だった。果たして自分に対して、プロ野球界が本当に門戸を開いてくれるのか――。期待と、それ以上の不安に耐えきれなくなって、行きつけの合宿所近くにあるパチンコ店へ足を向けた。

その年のドラフト会議の様子は

テレビで生中継されていたのだが、それも2位指名まで。そこまで名前が読み上げられることもなく、いたたまれなくなった私は「もしもオレがどこかに指名されたら、いつものパチンコ店へ知らせに来てくれ」下級生にそう頼んでおいで銀玉を弾くことに専念した。

あれは何時ごろだったのか、全力疾走で呼吸を荒くしながら駆け込んだ後輩から「指名にかかりました。広島カープの4位です」と告げられた。本当は、いまだに彼の激しい息づかいを覚えているほど、ものすごく嬉しい知らせだった。だが、私はこみ上げる喜びを押し隠すと、後輩の顔さえ見ようとせず「そうか」とだけつぶやき、素知らぬ顔でパチンコ台と向かい合い続けた。何とも照れくさかったのだ。

そのころのパチンコはいわゆるチューリップ台。大当たりして玉が出尽くすと「○○番台、打ち止め」というような店内アナウンスが響き渡るのだが、何とその日はまたどうした加減か絶好調で座った台を結局、打ち止めにした。すっかり遅くなってから合宿所へ帰ると監督さんが待ちわびていて下さって非常に恐縮したことを昨

日のように思い出す。

以来、それまでも増してパチンコは私にとってかけがいのない趣味となった。広島入団後は主に遠征時、試合前のひとときと台と向かい合って過ごすことが多かった。だが、漫然と遊んでいるだけでは勝てない。自分なりのデータ収集が必要だ。クギ調整はもちろん、出来る限り特定の店へ足を運び、よく出しているのが出入り口付近なのか交換カウンターの前なのか、など観察に徹した。

結論として必勝法はないが、集中力を持たずしては絶対に勝てない。チームメイトにも多くのパチンコファンがいたが、一流プレイヤーほど集中力が高く、勝率も高かった。単純に見えて実はこれほど奥の深い遊びはない。「不進不存進歩しなければ存在出来ない」という言葉を実感させられるほど、機械自体のハード面からホールサイドビスというソフト面に至るまで目覚ましい進歩を遂げ続けている。なぜか競馬や麻雀よりも下位にランク付けされがちだったが、間違いない。娯楽の王様。だと私は確信している。

かつては開店から閉店までの長時間バトルもいとわなかったが、

最近はずすがに体力、気力の衰えもあって移動や取材の空き時間などを利用した短期決戦を楽しむ機会が増えた。小遣いの範囲内で「海物語シリーズ」など気に入った機種にチャレンジしてリフレッシュさせてもらっているが、遊技とはいえギャンブルという側面がある以上、やはり勝率はアップさせたのが本音ではある。

「3回に1回は勝ちたい」というのが密かな目標だ。それというのもプロ野球の現役選手時代、残念ながら打撃成績としては、2割5分バッターだった身。せめて大好きなパチンコの勝率では、これからも3割打者として君臨し続けたいからなのだ。

たつかわ・みつお

1955年7月13日、広島県出身、55歳。広島商では73年夏に全国制覇。東洋大を経て78年、ドラフト4位で広島入団。捕手として84、86、88年にベストナイン、ゴールデングラブ賞を獲得するなど活躍し92年に現役引退。95年タイエーコーチ、98年広島2軍監督を経て、99年から2年間広島監督。03年阪神コーチ。現スポンサー報知野球評論家、フジテレビ・プロ野球解説者として活躍中。



役員さん  
登場!

お年寄りが  
1日3000円で遊べる  
環境が業界に求められる

## 安藤 享

全商協・理事 全商協リサイクル・環境対策委員 東遊商副理事長

あつてないような契約書に戸惑った22年前

家業を継ぐために35歳でパチンコ業界へ入ってきた安藤享理事は、契約書を交わしなからキャンセルがまかり通る業界の商習慣に面食らった。あれから22年。隆盛を極めた中古機市場も踊り場に差し掛かっている現在、過去の成功体験にしがみつくとなく、時代の変化に柔軟に対応していくことが、激動の時代を乗り切る一つの方策だという。

「パチンコ業界に入って、まず驚いたことが機械売買の契約書。正式に契約書を交わしながらキャンセルが普通に行われていた。メーカーさんもホールさんに『2度とないように』とお願いはしていましたが、違約金が発生するわけでもない。私のいた業界では考えら

れなかった。契約書があつてないようなもの。大変な業界に入ったな、というのが実感でした」と22年前を振り返るのは安藤享理事。

50年以上前に尊父が中古機販社として立ち上げた安藤商事は、東遊商の中でも古参格商社の一つに数えられるが、家業を継ぐ意思はなかった。大学卒業後は東洋醸造に入社。本人は酒の営業を希望したが、醸造技術を応用した医薬品





の企画部門で13年間のサラリーマン生活を送っていた。  
その頃、病気で入院した父親から「会社を継いで欲しい」と懇願され、安藤商事に入社することを決意する。安藤理事35歳、昭和が終わろうとする63年の暮れのことだった。

「子供の頃からおやじの苦労を見て育ったので、会社を継ぐ気もなかったし、おやじも継がせる気はなかった。ところが業界の景気が上向いているときに、おやじが入院。このままサラリーマンをやっていると同じことなので『じゃ、やるか』という気持ちでパチンコ業界に入りました」

当時の安藤商事は父親が社長で、営業マンが1人、経理の女性事務員が1人、という家族的な雰囲気の中古機を販売していた。そこへ専務として入社する。

**時代の変化に対応できる会社しか生き残れない**  
安藤商事の主力である中古機販売は、平成12年からスタートした販売業者主導の中古機流通によって、右肩上がり業績を伸ばしてきた。ところが21年9月あたりから減少傾向に転じる。22年は前年対比で約3割減。多忙だった中古機販売に陰りが見え始めている。

元々パチンコは嫌いではなかったが、実務は35歳にして初めて経験する。営業職からスタートするが、販社である以上釘が叩けなければいけない。会社の先輩について現場実践を重ね、釘学校へも入学したが「釘はあまり上手ではない」と打ち明ける。

入社した時は3人だった会社を時流に乗りながらスロット、新台と取り扱い品目を増やし、平成7年には代表取締役就任。販社を19人の規模に拡大させた。

「私が業界へ入った頃は新台は平均すると4〜6か月は使っていました。入れ替え頻度も年3〜5回。その時は総台数の半分近くは入れ替えた。おかげで1月に入れ替えゼロで暇な月だった。ところが今は新台の入れ替えサイクルが極端



役員さん  
登場!

## 東遊商 安藤 享理事トリビア

血液型	AB型
座右の銘	自分に正直に生きる
好きな本	仏教、禅関係
好きな色	ブルー
好きな音楽	演歌
好きなスポーツ選手	ポール・ケシー
好きなタレント	ねづっち
好きな歴史上の人物	勝海舟
カラオケ十八番	なし
趣味	ゴルフ
今年の夢	新規事業

趣味はゴルフ。100を切るのが目標というが、堅実なプレーは定評がある。好きなゴルフアースは、欧州ツアーで10勝、米国PGAツアーでも優勝しているポール・ケシー（イングランド出身）という、「流石の技巧派」でもあります。普段は寡黙ながら、会社のスタッフからは「いい人」「やさしい人」「真面目なお父さん」と尊敬されている。

に早くなった。新台がどんどん売れるから、中古機もどんどん出る。それによって中古機市場が活況を呈してきました。中古機業者の立場ではそれはいいことですが、自分の利害だけを主張しても業界はよくありません。まず、お客様にホールに来ていただくこと。そして、ホールさんが元気にならないことには、メーカーもわれわれ販社もよくありません」

折りしも、11月8日付朝刊にパチンコに熱中するお年寄りの記事が掲載された。年金をパチンコにつき込み、中には借金まで背負っている人も。パチンコ依存症の高齢化問題が起ころうとしている、と指摘する。年配客を取り込もうとするパチンコ業界にとってはネガティブな内容だった。

「1万円が20分で消える。今のパチンコはお金がかかり過ぎ。1万円あれば平日ならゴルフができま

す。確かに1円パチンコがありますが、お年寄りが1日3000円でパチンコを楽しめることを時代が求めています。こういう時代を生き残れるのは、会社の規模や資金力ではなく、時代の変化に対応できる会社ではないでしょうか。セブン機一辺倒ではお客様も面白みがない。昔のように多彩な機種構成が望まれます。それがお客様の再来店にもつながるはずですよ」

一向に回復の兆しが見えてこない日本経済に、安藤理事の目は業界だけではなく、日本そのものに向けられている。

「日本の人口が減ることは、パチンコ業界だけでなくすべての業界に影響を及ぼす問題です。昔のように産めよ増やせよではありませんが、子育て支援はいいことだと思います。人口が減ることだけは国力が下がることです。国民の中でも特に若者が夢を持てるよう

なバラ色の政策も必要になってきます。将来に希望が持てなければ若者も働く意欲を失い、結婚もしないようになります。それが今の姿です。夢と希望を持って働ける社会環境が求められます」

パチンコは余暇産業である。景気が回復して生活が安定した時に賑わうのが本来の姿でもあろう。

## 機械を入れるビニール袋は「ゴミ袋」として再利用を

全商協ではリサイクル・環境対策委員会に所属。同委員会が現在取り組んでいるのが、全国8単組のペーパーレス化だ。連絡事項や会議資料などは従来はFAXで送っていたが、現在は極力電子メールで送信している。

安藤理事が所属する東遊商では、委員会の会議は各自パソコンを持ち込み、資料をプリントアウトすることはしない。ペーパーの方が見やすいという人も多いだろうが、慣れれば問題はない。

ペーパーレス化を推進する一方で、環境対策で新たな問題が発生してきた。新流通システムの実施に伴い機械を封入するビニール袋の問題だ。新流通のセキュリティ

ーを担保する意味で機械をビニール袋詰めにするわけだが、中古機が流通した数だけ使用済みのビニール袋がゴミとなる。

「ホールさんにお願しているのはビニール袋の再利用。燃やしても大丈夫なので、ゴミ袋として、ホールだけでなく家庭でも活用していただきたいですね」と二次利用を促す。

全商協の中でも古参格となった現在、健康管理にも気を使うようになった。禁煙を目指したこともあるが挫折。それならばと、節煙のためにそれまで吸っていた1ミリから5ミリに変更して1日に吸う本数を減らしている。果たしてどれほどの効果があるのやら？

趣味はゴルフ。100を切るのが目標。1日3〜5キロのウォーキングをするだけでも下半身強化につながりゴルフが上達する、と知人からアドバイスされたが「気持ちだけ歩いている。禁煙と一緒になかなかできない。昔からクジとジャンケンには弱くてね。それで今回取材を引き受けることになっちゃった」と打ち解けてくると茶目つ気が顔を覗かせる。



## 東北遊商

東北遊商では、山形県遊技業協同組合連合会より依頼を受け、「中古機流通制度研修会」を平成22年10月に酒田市と山形市で2日間にわたり実施した。研修の目的は、平成22年6月から実施している新中古機流通制度においてホール管理者が作成することになった「撤去遊技機明細書」その他の書類について、改めて説明を行い理解を深めてもらうためだ。

冒頭で渡邊理事長は、「一連の中古機流通は、例えば車の両輪と解釈致します。記載ミス等があれば流通に支障がきたすことになります。そのためにも管理者としての責務の確実な遵守励行にご理解を」と協力をお願いした。

1日目には72人、2日目には103人の山形県遊技業協同組合連合会の組合員が出席し、書類作成時における留意点やセキュリティシール取り扱い等の研修を受けた。

### 山形でホール管理者に研修会実施

## 北遊商

北海道遊商では、総務委員会（委員長・櫻井篤行）の提案による社会貢献活動が活発だ。

平成22年秋には、組合員に献血活動を呼びかけたところ、15社66名の参加があった。

献血を行った組合員には、献血時に渡される日本赤十字社発行の赤い「献血カード」のコピーを組合に提出してもらい、組合で人数や回数を記録している。「献血カード」には、カタカナで本人の氏名と献血した記録、さらに次回献血可能日が印字されている。

また、今回初めての試みとなるが、今まで行ったチャリティーゴルフコンペ等の浄財を札幌市内の盲学校へ寄付することも予定している。

北海道遊商では、今後もこのような社会貢献活動を続けていく方針だ。

### 活発な社会貢献活動

# Vol.1

## 中国遊商

中国遊商では、平成22年10月から、書類の申請・発給時に使用する封筒の代わりとして「エコバッグ」の導入に踏み切った。

エコバッグは、ダッフル生地の色で、縦33センチ、横22センチ、幅4センチの大きさで、経費の削減と環境保護を目的に100袋を製作し、1版社に2袋ずつ配布したもの。

発案は、リサイクル・環境対策委員会（委員長・中村好秀）で、1年間の歳月をかけて、調査、検討を重ねて導入に至った。

これによって、1か月約500枚使用していた封筒が、エコバッグ導入後は、約100枚程度に減少した。

組合員からは「使いやすさと、環境保護への貢献、セキュリティの確保の面から、一石三鳥の効果がある」との反響があり、好評である。

### エコバッグが大好評！



## 関西遊商

関西遊商は、セキュリティ委員会による近畿遊技機輸送事業協同組合に加盟する25社の運送業者について倉庫現地調査を実施し、結果を平成22年秋にまとめた。

関西遊商では、組合員に所属する取扱主任者が、運送会社の倉庫に立入る際には、本人確認のための「身分証明書」の提示や「中古遊技機点検作業申込書」の記入等を義務づけており、今回の調査の目的は、この運用が正しく実施されているかを確認するためだ。

また、機械対策委員会が、身分証明書の提示をお願いするポスター（パネル）を作成し、各運送会社に配布しており、その掲示がなされているかも調査の対象とした。（写真参照）

セキュリティ委員会の和久田委員長は、「書類の記入や防犯カメラの設置等、適正になされていることが、確認できた。今後も定期的にこのような調査を実施したい」と語っていた。

### 倉庫現地調査を実施







## 中部遊商

中部遊商では、平成22年8月にリサイクル・環境対策委員ら7名が、日本自動車連盟(JAF)が認定する「JAFエコ・アドバイザー」の資格を取得するなど、エコ活動には大変熱心だ。

平成22年11月10日には、「第2回エコドライブ講習会」(中部遊商主催)が石川県安全運転研修所で開催された。第1回の講習会(名古屋)では、JAFの指導員数名を招いての開催だったが、今回は中部遊商のエコ・アドバイザー4名にJAFからの指導員1名を加えての講習会となった。

「JAFエコ・アドバイザー」とは、団体や企業のエコドライブ推進担当者を対象に、エコ運転技術のほか、エコドライブの実践講習会に必要な器材(燃費計測器)の使い方などの講習を受けた上で取得できる資格で、中部地区では中部遊商が初の資格認定団体となっている。当日は、組合員10名が出席し、エコ走行の手法、アクセルワーク等の指導を受けた。中部遊商では、今後も東海地区と北陸地区でバランスよく講習会を開催していく予定。

### 第2回エコドライブ講習会を実施

## 東遊商

東日本遊商では、広報誌「Toyusho」(A4判・カラー35P・毎月発行)を発行して1年以上が過ぎた。

広報誌は、東日本遊商の広報委員会(委員長・仙田博久)の委員8名が企画している。

広報委員会は、毎週のように東日本遊商の会議室で開催され、各県遊協理事長へのインタビューや「攻略法詐欺撲滅」等業界の最前線の記事を掲載してきた。組合員からは、「検定有効期間満了を迎える機種の一覧などが載っていて、大変助かっている」との声が寄せられている。委員の1人は、「当初はいろいろ大変だったが、これからは組合員の役に立つ情報を掲載していきたい。毎月、毎月成長していく広報誌を目指したい」と抱負を語っていた。

なお、裏表紙には「ちょっとより道」のタイトルで、取材途中で出会ったステキな風景や名物料理などを紹介。特色ある「粋な味付け」も好評だ。

### 広報誌発刊から1年が経過

# 地区遊商だより

## 九州遊商

九州遊商は、前身である「九州遊技機商業組合」が昭和35年6月に福岡市で創立されてから、本年度で50周年を迎える。

組合では、8名の委員による50周年記念事業準備委員会(責任者・武下俊治)を設け、準備を進めている。

委員会は、「九州遊商50周年記念誌」の発行を予定しており、平成2年に福岡で開催された「パチンコ産業展」の資料等50年間にわたる記録や写真を探し集めた。さらに歴代理事長による座談会を実施するなど、編集作業は順調だ。

また、平成23年1月26日には、ホテルオークラ福岡にて、新年会の開催前に「設立50周年記念式典」を計画しており、元吉本興業常務取締役で現在はフリープロデューサーの木村政雄氏を講師に招き、記念講演を実施する予定。

### もうすぐ創立50周年!

## 四国遊商

平成22年10月22日、高松市内で四国遊商主催の「親睦ボウリング大会」が開催された。

天本相石大会実行委員長のもと、組合員やその会社で働く社員等総勢160名が集まった。

参加者の中から選ばれた選手代表2名が、元気に選手宣誓を行い、各チームがそれぞれのレーンに並び競技を開始した。参加した女性は、「会社ごとではなく、ほかの会社の人たちとチームを組むようになっていたので、初めて会う人とも友達になれて、とても楽しかったです」と話していた。

成績の良かった人からくじ引きを行い、景品として用意された大型テレビや洗濯機を引き当てる選手もいた。

また、参加者全員に、男子には栄養ドリンク、女子には芳香剤が配られた。大会終了後も、参加者それぞれがロビーに集まり、交流を深めていた。

### 親睦ボウリング大会を開催



# 振り返って

## 全商協の出来事

1月・広報誌「全商協」第1号(創刊号)を発刊した。今後、年4回の発行を予定する。創刊号には、行政、関連団体からの祝辞、「特集10年目の節目を迎える販社主導の中古機流通」等の記事が掲載された。

### 《認定申請機の写真撮影開始》

2月・1月の試験運用期間を経て、ばちんこ遊技機の「認定申請機」について、写真撮影を実施し、撮影画像をUSBメモリにより組合に提出する業務が開始された。撮影箇所は、認定証紙貼付後に、主に「主基板製造番号」「主基板ROM」「主基板全体」の3か所、その他必要に応じて追加することとした。データは、3年間保存する。

3月・岡山県「鬼ノ城ゴルフ倶楽部」にて、第1回全商協会長杯チャリティーゴルフコンペが開催された。

第1回優勝組合は中国遊商、2位は関西遊商。チャリティーの浄財を財団法人自動車事故被害者援護財団に寄付した。

4月・日本遊技機工業組合が、平成21年12月に取得した「広域認定制度」の運用を開始した。これにより経過措置とされていた全商協の「広域指定制度」は、「廃止届」を4月6日付けで環境省に提出し、終了した。

### 《回胴遊商との相互参入解消》

5月・中古機流通事業の相互参入について、新規参入希望者の受付を停止し、平成23年3月31日をもって相互参入を解消すること等を定めた「覚書」を回胴遊商と取り交わした。

また、平成22年6月1日から平成23年3月末までの期間において、参入を希望する組合員は、新書式の「仲介業務に関する合意書」「誓約書」「同意書」を改めて提出した。

### 《中古遊技機流通制度の新運用を開始》

6月・「型式の同一性の担保」「責任の所在の明確化」を重視した新中古機流通制度の運用が開始される。中古遊技機を1台ずつ指定のビニール袋に入れ、セキュリティシールで封印を行うこととした。

さらに、「納品確認書」を改正し「保管・納品確認書」とし、「遊技機受渡書」と「中古遊技機点検確認リスト」を統合して「中古ばちんこ遊技機等点検確認受渡書」として新様式とした。

また、ホール管理者は、「撤去遊技機明細書」「中古遊技機確



第22回通常委員会  
ビニール袋に入った中古機

## 社会の出来事

・経営難に陥っていた日本航空は、東京地裁に会社更生法適用を申請し、開始決定を受けた。

企業再生支援機構の支援を受け、3年以内の再建を目指す。

・第21回冬季五輪バンクーバー大会が、冬季五輪史上最多の82か国・地域からの参加で開幕した。日本は、銀メダル3個、銅メダル2個を獲得した。

・民主党がマニフェストに掲げた子ども手当法案が成立した。平成22年度に限りて年3回、中学生以下の子どもの1人あたり、月1万3000円を支給する内容。また、公立高校の授業料を無償化する法律も成立した。

・殺人など凶悪犯罪の公訴時効の廃止、延長を柱とする改正刑事訴訟法、改正刑法が成立、異例のスピードで即日施行された。

・中国で、史上最大規模となる万国博覧会「上海万博」が開幕し、初日1万人が行列を作った。

・アメリカ軍普天間基地移設問題で鳩山首相(当時)が沖縄を訪問し、「県外への全面移設を断念する」と表明した。

・宮崎県で家畜の伝染病、口蹄疫の感染が拡大し、牛へのワクチン接種が始まった。

・民主党は、退陣表明した鳩山首相の後任を選ばず代表選を行い、菅直人副総理・財務相(当時)を新代表に選出し、菅政権が発足した。

・サッカーワールドカップ南アフリカ大会が、開幕した。日本代表は、アウェーで初の勝利を挙げるなど2勝1敗で決勝トーナメント進出を果たした。

・「大相撲の野球賭博問題」が報道され、日本相撲協会は、「相撲協会設立以来の危機」と記者会見を行った。



# 2010年を

「認書」の書類作成を新たに行うこととなった。

・東京都千代田区「KKRホテル東京」にて第22回通常総会が開催された。

・北海道登別で、第4回定例理事会が開催され、6月から開始された新中古機流通制度の「新書類の記入例」を関係団体へ通知したと報告があった。

・全商協会議室で、第5回定例理事会が開催され、第68回中古機流通協議会からの報告として、ホール管理者の「補助員制度案」について説明があった。

・兵庫県「ABCゴルフ倶楽部」にて第2回全商協会長杯チャリティゴルフコンペが開催された。

・第2回の優勝組合は四国遊商、2位は中国遊商。前回同様、財団法人自動車事故被害者援護財団に寄付が行われた。



ゴルフ大会表彰式▲

## 《APEC開催に伴い遊技機の入替自粛》

・11月に開催されるAPEC首脳会議に伴い、10月半ばから11月半ばまで遊技機の入替自粛が全国のホールで実施された。

・これにより中古遊技機の流通も自粛された。

・全商協会議室にて、定例理事会前に、日遊協・篠原専務理事を講師に迎え、「遊技業法案」の勉強会が行われた。

・回胴遊商より、中古流通業務の相互参入解消に伴う回胴遊商組合への加入手続きの特例措置（保証人等）について連絡があり、傘下組合に通知した。



勉強会の様子▲

・全商協会議室にて、第8回定例理事会が開催され、第2回全商協会長杯チャリティゴルフコンペの費用報告、次回からの参加資格や開催地の決定方法について承認された。

・また、全機連からの連絡としてリカバリーサポート・ネットワークへの助成金について報告があった。

・回胴遊商へ、中古流通業務の相互参入解消に伴う地区遊商への加入手続き（一部組合では協議中）について連絡した。

・全商協会議室において、第9回定例理事会が開催され、確認証紙（中古用）の発給枚数が、4月から11月までの累計前年比74%となったと報告された。

・参院選で民主党など与党が大敗して過半数割れ、衆参でねじれ国会となった。

・8月半ばを過ぎても、記録的な猛暑が続いた。また、東京都内の13歳の女性が行方不明であることをきっかけに、全国でも所在が判明しない高齢者が多数存在することがわかった。

・東京外国為替市場でドル・円が一時82円台となり、15年ぶりの円高が急速に進出した。

・東シナ海の尖閣諸島沖で中国漁船と海上保安庁巡視船が衝突する事件が発生した。

・「郵便不正事件」で、厚生労働省・村木元局長に無罪判決が確定した。また、この事件を担当した大阪地検特捜部主任検事による証拠改ざん事件が発生した。

・チリ北部の銅鉱山で、落盤事故のため地下坑内に閉じ込められた作業員33名が、69日ぶりに救出され、全世界にその様子が報道された。

・世界の生態系保全について話し合う生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋で開催された。

・羽田空港に新国際線ターミナルが開業した。24時間運営の国際拠点空港として新たな一歩を踏み出した。

・ロシアのメドベージェフ大統領が、北方領土・国後島を訪問した。これを受け政府は、駐ロシア大使を一時帰国させた。

・9月に起きた尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件を巡り、海上保安官による画像流失事件が発生した。

・第18回APEC（アジア太平洋経済協力会議）首脳会議が神奈川県横浜市で開催された。

・北朝鮮が、韓国・延坪島に約50発の砲弾を発射し、この砲撃により、兵士や民間人に死傷者が出た。

・東北新幹線の八戸駅～新青森駅間が開業した。東京、新青森間を最短3時間20分で結ぶ。



## 遊技新法(案)が明らかに

民主党・娯楽産業健全育成研究会(古賀一成会長)の新法検討事務局がまとめた「遊技業に関する法律案」が明らかにされた。

遊技新法(案)では、ホールに対する許可及び指導・取締りは公安委員会(警察庁)の所管としているものの、遊技機メーカーや販売業者、周辺機器メーカー等を「遊技関連事業者」として法律上に規定し、遊技関連事業者の指導・監督を行う所管行政に経済産業省を想定している。法案では、遊技関連事業者に営業許可は求めているが、経産省への届出を必要とする。

また、遊技関連事業者の禁止行為も明確に規定され、違反者に対する行政処分も盛り込まれている。禁止行為のほとんどが遊技機の不正改造関連に集約され、最大6か月の営業停止などホールに対する現行風俗法と同程度の行政処分を課すとしている。

なお、懸案の「換金」についての合法化は盛り込まれなかった。

## 日遊協が試打会を開催

日本遊技関連事業者協会(深谷友尋会長)は昨年11月17日、日遊協本部での記者会見で「パチンコ・パチスロ試打会」の開催を発表した。

この会見で深谷会長は、今年2月28



昨年5月20日、日遊協 遊技機開発委員会は、会員各社を対象に遊技機メーカーの協力で試作したCRAA機の展示・試打会を開催した

日に東京都墨田区のすみだ産業会館サンライズホールにてパチンコを休止している人及び止めようとしているファンを対象としたCRAA機の試打会を開催するとし、アンケートやヒアリング調査を実施。結果をメーカー、ホールにフィードバックする予定とした。

CRAA機とは、日遊協の機械開発委員会が検討・開発を進めている遊技機で、「1円パチンコのエッセンスを持った4円パチンコ」との位置づけ。

具体的なイベント内容は会見時には未定だが、試打会の他にフォーラム形式の討論会や遊技機アワードの復活などの案があり、またパチンコ・パチスロメーカーへもブース出展を呼びかけている。

## 日電協が創立30周年を迎える

日本電動式遊技機工業協同組合(里見治理理事長)は昨年11月25日、創立30周年を祝う記念式典を盛大に開催した。

日電協の設立は昭和55年11月。パチスロ機メーカー団体として発足し、設立当初は10社だった加盟メーカーも現在は28社となった。

会の冒頭、挨拶に立った里見理事長は、「最初の10年は違法機が出回るなど混沌とした時期もあったが、現在はほとんど解決されている。30周年を機に真に信頼される組合になるよう努力したい」と述べ、更なる健全化に向け決意を表明した。

続いて、警察庁生活安全局保安課の加藤達也課長は「現在の業界にあつてパチスロはなくてはならない存在」とパチスロを評価すると共に、適度に抑制した射幸性の機械開発と継続的な不正対策を要請した。

## ATMの試験導入を拡大

平成19年11月から始まったホール向け銀行ATMのフィールドテストは、設置エリアを拡大して第2段階に入っている。

第1次は東京都と神奈川県、10店舗で実施され、平成21年2月より埼玉県と千葉県、兵庫県の3県にも導入された。今回の第2次導入では、この1都

4県に加えて茨城県・栃木県・群馬県の3県が追加され、導入総店舗数は400店舗になる見込みだ。

このホール向け銀行ATMの設置は、のめり込み防止の観点から1日の利用限度額を3万円に設定。引き出しは預金残高に限り、キャッシュローンの利用は不可となっていた。第2次以降も利用制限は継続したまま、さらに月額15万円以内の制限が設けられる。これはシステムを運用するトラストネットワークからの提案で、過去の利用履歴から月額取引の約95%が10〜15万円に集中していたことから同社が自主的に取り組むものだ。

## 日本G&amp;Cとジョイコが経営統合

プリペイドカードシステムを供給する日本ゲームカードとジョイコシステムの経営統合は、昨年11月25日に発表。統合日は今年4月1日となる。

この経営統合は共同株式移転の方法がとられ、共同持株会社を設立し、完全親会社となる共同持株会社の子会社として2社が傘下に入る形となる。株式移転に伴う割り当ては第三者算定機関の評価を踏まえ、また共同持株会社の名称も近く決定される予定だ。統合の理由を日本ゲームカードは、ホール数の減少に伴い加盟店が減少しており、両社の経営資源を集中させて事業環境の変化に先手を打ちたいとしている。



## 編集後記

■平成23年の干支は「卯」、印旛の白ウサギ（古事記）として知られるように、昔話では、ウサギのイメージはあまり芳しくない。イソップ物語の「ウサギとカメ」でもずる賢い役回りとして登場してくる。でも占いでは「ウサギ年（卯年）」生まれの宿命として、「奉仕の精神を持って善行をつくり、長寿な人が多く、可愛がられて苦労無く成功する」とあります。

■京都・宇治のあじさい寺、三室戸寺には狛犬ならぬ「狛兎」が本堂前に鎮座しているとのこと。御影石製の高さ150センチ、幅90センチの大きさの狛ウサギさんは、幅60センチの大きな玉を抱いていて、玉の中には卵型の石があり、それが立てば願いが通じるとか。「ウサギのように飛躍し、仕事が順調に行きます」「成功の秘訣は聞き上手、福耳立てて幸運キャッチ」と「昇運」のお守りとしても知られているそうです。

■その狛ウサギにあやかり、2011年は何としても、昇運の年としたいものです。そういえば、愛くるしいウサギさんは、お月さまにもいましたね。最近では月夜もまなぬ物騒な世の中ではありますが、「♪兎追ひし かの山 小鮒（こぶな）釣りし かの川 ♪夢は今も めぐりて 忘れがたき 故郷（ふるさと）…」昔の唱歌を思いだしながら、故郷の自然を守り、エコ活動に励みましょう。（S）

# お知らせ

## 第70回中古機流通協議会開催

平成22年11月29日、全商協会議室で第70回中古機流通協議会（委員長・金本正浩全日遊連副理事長）が開催された。

中古機流通の新運用について、履行状況やシステム上の問題など実務面での検証を行うため、平成23年1月から「中古機流通作業部会」を新設することが承認された。作業部会の参加団体は、会議内容により決定し、原則として各団体2名は参加する。

また、10月までの確認証紙の発給状況について、APECによる入替自粛の影響もあり前年対比73%で推移したと報告された。

## 日遊協 第1回パチンコ・パチスロ「エッセー・絵手紙」コンクール 作品募集中

（社）日本遊技関連事業協会では、従来の「論文・作文コンクール」を発展させ、第1回パチンコ・パチスロ「エッセー・絵手紙」コンクールを実施。作品を募集している。

テーマは、エッセー・絵手紙ともに「パチンコと私」「パチスロと私」



## 平成23年度の「全商協スローガン」を募集します

全商協では、遊技機の適正流通を推進してきました。さらに「今年はこのように活動していこう」という皆様の気持ちを短い言葉で表現してください。

詳しいお問い合わせは、各地区遊商まで。

来のパチンコワールド」の3点から自由に選べる。  
詳しい応募方法等は、日遊協コンクール事務局（☎03・3553・4333）まで、または日遊協ホームページを参照。

次号は4月に発行予定です。  
「主基板等点検のポイントと不正防止」などを特集します。





<http://www.zenshokyo.jp/>